男女共同参画・委員会企画 JOYFUL通信

デュシェンヌ・スマイル～笑顔の力～

岡山大学病院運動器疼痛センター副センター長
鉄永 倫子

私は子どもの頃からいつもニコニコしているとよく言われていました。確かによく笑っていたと思います。うれしい時も辛い時も…。笑っていると相手に笑顔が伝染すると子どもの頃から信じていました。

運動器疼痛、特に、長引く痛みの方々の診療に携わる中で素敵な出会いや場所がありました。

素敵な出会いは、「置かれた場所で咲きなさい」の著者渡辺和子シスターでした。渡辺シスターは、「時間の使い方は、そのままいのちの使い方。置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。こんなはずじゃなかったと思う時にも、その状況の中で“咲く”努力をしてほしいのです。」と述べておられます。本当はネガティブ思考であった私のスイッチが変わった瞬間で、それからは、痛み診療の中でも、患者さん個々のネガティブな状況をポジティブな状況に変えるためにはどうしたらよいのかという視点で考え始めるようになりました。

素敵な場所は、Boston Children's Hospitalです。病院が？と思われるかもしれませんが、素敵な場所・空間、そして素晴らしいスタッフを有していると感じました。病院と感じさせない雰囲気が私を虜にしました。Brigham and Women's Hospitalの病院見学に全国の痛みセンターの方々と訪問した際に、隣に建っていたのがBoston Children's Hospitalでした。半年後に夫が小児股関節を学びに留学することが決まっており、留学の窓口をして下さっていたProf. Kimに名刺とメッセージを預けるために受付に行きました。病院への入口まで、出会う人、出会う人が笑顔で挨拶してくれ、ここは病院？とまたまた思いました。その後、Prof. Kimから「せっかくなので少しでもBostonへ来たら」とメールを頂き、その言葉に大いに甘えて子どもが夏休みに入った時に一緒に1カ月Bostonへ行きました。Prof. Millisが脊椎を専門としているなら側弯の手術見学を、そして、痛みの診療をしているなら痛みセンターへ見学をと計画していただき、また、その間の子どもたちの預け先も紹介して下さいました。Boston Children's Hospital内を案内して下さった時、病院内がテーマパークのようにワクワクする空間で、また、スタッフの方々も患者さんも、みんなよく笑っていました。カフェテリアの従業員の方々も掃除をして下さっている方々もみなさん最高の笑顔でした。Prof. Millisから「階段を上がってごらん」と話しかけられ、我が子が階段を踏むたびに音楽が鳴り響き、またまた、笑顔になりました。Boston Children's Hospitalで一番学んだ事は“笑顔の力”でした。苦しい治療を受けなければならない子どもたちにいつも向けられる笑顔と素敵な空間は、辛さを笑顔に変える力を持っている事を学びました。

デュシェンヌ・スマイル（真の笑顔）＝笑顔によって幸せが訪れる、そんな笑顔の力が整形外科全体・医療全体に広がっていけばと、そう願いながらこれからも笑顔で患者さんを迎えたいと思います。

Prof. Millis夫妻とのディナー